

## 行事報告

## 広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(インドネシア)

広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター 運営委員会 委員 菅哲男  
接合科学研究所 客員教授

2018年度のインドネシア CIS (カップリング インターンシップ)が、インドネシアで12月9日-12月22日の期間に行われました。大阪大学の外国語学部1名、経済学研究科1名、工学研究科2名、インドネシア大の人文学部2名と工学研究科2名の計8名の学生が参加しました。接合科学研究所の橋本特任講師が、CISの全工程を引率しました。

現地では2日間の事前研修をインドネシア大(デポック)で行い、日本企業の説明やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育、CIS実習テーマの検討などを実施しました。12日からの休日を除く5日間は、セランにあるチレゴン・ファブリーケーターズ(PTCF)社で企業実習を実施しました。PTCFは、IHIの子会社であり、現地で34年の歴史のある「発電用ボイラの製造メーカー」です。実習としては、会社説明(組織、業務内容)、溶接講習、品質管理・工程管理などの説明を受けると共に、工場見学(ボイラ・プラントの製造)や、PTCFの経営者や現場スタ

ッフとの面談を行いました。又、18日には建設中のLontar火力発電所(バンテン)も見学しました。学生は、実習テーマの「労働安全の課題と対策」に関して、連日真剣に取り組みました。終盤に体調不良者が出ましたが、全員が助け合っ

てテーマのとりまとめをしました。最終日の21日にはインドネシア大で、学生は実習テーマの検討結果について発表しました。最終報告会には、インドネシア大学のBaiduri部長(International Office)、Winarto教授、PT.CFの永吉社長、Ardiansyah部長、大阪大学の菅客員教授、橋本特任講師ら計15名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。永吉社長からは、「安全対策に関する貴重な提案が出ている」とのコメントがありました。

学生は、「現地企業のものづくり現場」を体験すると共に、実習テーマの討議を通して「異文化コミュニケーション力」を向上させており、大変有意義な活動でした。アジアのエネルギーをもらって、22日に全員無事に帰国しました。

